

シラバス
(令和4年度)
作業療法学科
昼間コース2年生

学校法人 巨樹の会

小倉リハビリテーション学院

共生

共に学び 共に歩み 共に進む

私ども小倉リハビリテーション学院は、専門的な知識技術を提供する前に利用者の方々の立場に軸足を置き、思考することを第一義に考える専門家の輩出をめざしております。

本来サービスという言葉の持つ意味は利用者本位でなくてはなりません。特に保健・医療・福祉分野では、安全で個性があり質の高いサービスの提供が相互の信頼を生むものと確信しております。

教職員および学生一同は建学の精神を心に刻み、次世代に残すべき人『人財』の育成をモットーに地域の皆様と「共」に学び・歩み・進むことをお約束いたします。

教育目標

- 一 心豊かに分かり合える、理学療法士・作業療法士であること
- 一 信頼される、理学療法士・作業療法士であること
- 一 暮らしを支える、理学療法士・作業療法士であること

令和4年度年間予定

令和4年度 年間予定

理学療法学科・作業療法学科(昼間コース)

	第1学年	第2学年	第3学年
前期	入学式 4月2日(土)	始業 4月1日(金)	始業 4月1日(金)
	オリエンテーション・面談 4月1日(金) ~ 随時	面談 4月4日(月) ~ 随時	講義 4月4日(月) ~ 4月22日(金)
	講義 4月4日(月) ~ 7月15日(金)	講義 4月4日(月) ~ 7月15日(金)	総合臨床実習Ⅲ 4月25日(月) ~ 6月17日(金)
	補講・定期試験期間 7月19日(火) ~ 8月5日(金) 8月8日(月)・9日(火)予備日	補講・定期試験期間 7月19日(火) ~ 8月5日(金) 8月8日(月)・9日(火)予備日	講義 6月20日(月) ~ 7月1日(金)
	夏季休業 8月10日(水) ~ 8月31日(水)	夏季休業 8月10日(水) ~ 8月31日(水)	合同就職説明会 6月29日(水)
	再試験(対象者のみ) 8月25日(木) ~ 8月31日(水)	再試験(対象者のみ) 8月25日(木) ~ 8月31日(水)	総合臨床実習Ⅳ 7月4日(月) ~ 9月9日(金)
	講義 9月1日(木) ~ 12月14日(水)	講義 9月1日(木) ~ 12月14日(水)	
後期	補講・定期試験期間 12月15日(木) ~ 12月28日(水) 1月4日(水) ~ 1月6日(金) 1月10日(火)~12日(木)予備日	補講・定期試験期間 12月15日(木) ~ 12月28日(水) 1月4日(水) ~ 1月6日(金) 1月10日(火)~12日(木)予備日	就職説明会 9月15日(木)予定
	冬季休業 12月29日(木) ~ 1月3日(火)	冬季休業 12月29日(木) ~ 1月3日(火)	講義および国家試験対策 9月12日(月) ~ 2月17日(金)
	再試験期間(対象者のみ) 1月26日(木) ~ 2月3日(金)	再試験期間(対象者のみ) 1月26日(木) ~ 2月3日(金)	第58回 国家試験 2月19日(日)予定
	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 1月13日(金)/3月6日(月)	実習オリエンテーション/ 実習振り返り 1月13日(金)/3月6日(月)予定	
	臨床実習Ⅰ 2月6日(月) ~ 3月4日(土)	(PT) 臨床実習Ⅱ、評価演習 2月6日(月) ~ 3月18日(土)	
	春季休業 3月13日(月) ~ 3月31日(金)	春季休業 3月22日(水) ~ 3月31日(金)	卒業式 3月3日(金)
	(OT) 臨床実習Ⅱ-1、臨床実習Ⅱ-2 2月6日(月) ~ 3月18日(土)		

カリキュラム

2022年度 作業療法学科 昼間コース カリキュラム

分野	教育内容	指導要領	授業科目	1年		2年		3年		時間数	単位数	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期			
基礎分野	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	人文科学	心理学	30						30	2	
		自然科学	統計学				30			30	2	
			情報処理				30			30	2	
			物理学	30						30	2	
		コミュニケーション学	基礎教養	30						30	2	
			対人関係演習 I	30						30	2	
対人関係演習 II			30					30	2			
専門基礎分野	人体の構造と機能 及び心身の発達	解剖学	解剖学 I	30						30	2	
			解剖学 II		30					30	2	
		生理学	生理学 I	30						30	2	
			生理学 II		30					30	2	
		運動学	運動学 I	60						60	4	
			運動学 II		30					30	2	
			運動学演習 I	30						30	2	
			運動学演習 II		30					30	2	
		人間発達学	人間発達学		30					30	2	
		疾病と障害の成り立ち 及び回復過程の促進	リハビリテーションの 基礎	リハビリテーション基礎医学 I	30						30	2
				リハビリテーション基礎医学 II		30					30	2
			臨床医学総論	医学概論	30						30	2
	病理学概論					30				30	2	
	臨床医学各論		整形外科			30				30	2	
			内科学			30				30	2	
		神経内科学			30				30	2		
		臨床心理学		30					30	2		
	精神医学		30					30	2			
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	リハビリテーション概 論・医学	リハビリテーションと作業療法 I	30						30	2	
			リハビリテーションと作業療法 II	30						30	2	
	専門分野	基礎作業療法学	基礎作業学	基礎作業学 I	30						30	2
				基礎作業学 II		60					60	2
				基礎作業学 III			30				30	1
				生活機能演習				30			30	1
作業療法管理学		作業療法管理	作業療法管理学					30		30	2	
作業療法評価学		作業療法評価学	基礎評価学演習 I	60						60	2	
			基礎評価学演習 II		60					60	2	
			基礎評価学演習 III			30				30	1	
			基礎評価学演習 IV				30			30	1	
			臨床評価学演習 I	30						30	1	
			臨床評価学演習 II		30					30	1	
作業療法治療学		日常生活活動学	日常生活活動学演習 I		30					30	1	
			日常生活活動学演習 II			30				30	1	
		義肢装具学	義肢学		30					30	1	
			装具学			30				30	1	
		疾患別作業療法学	高齢期の作業療法				30			30	1	
			中枢神経疾患の作業療法学 I			60				60	2	
			中枢神経疾患の作業療法学 II				30			30	1	
			運動器疾患の作業療法学				60			60	2	
			小児疾患の作業療法学			30				30	1	
			内部障害系疾患の作業療法学 I			30				30	1	
			内部障害系疾患の作業療法学 II				30			30	1	
			精神障害の作業療法学 I		60					60	2	
			精神障害の作業療法学 II			60				60	2	
	高次脳機能障害の作業療法学					30			30	1		
作業療法学技術演習 I			60				60	2				
作業療法学技術演習 II				60			60	2				
作業療法総合学習	作業療法総合学習	作業療法学総合学習 I					60	60	2			
		作業療法学総合学習 II				60	60	2				
		作業療法学総合学習 III				60	60	2				
地域作業療法学	地域作業療法学	生活環境学				30		30	2			
		地域作業療法学演習				30		30	2			
臨床実習	臨床実習	臨床実習 I		45					45	1		
		臨床実習 II - 1			45			45	1			
		臨床実習 II - 2			90			90	2			
		臨床実習 III				360		360	8			
		臨床実習 IV				450		450	10			
* 基礎分野: 講義15~30時間1単位 * 専門基礎分野: 講義・演習15~30時間1単位 実習30~45時間1単位 * 専門分野: 同上 * 臨床実習: 40~45時間1単位	基礎分野	120	30	0	60	0	0	210	14			
	専門基礎分野	270	240	120	0	0	0	630	42			
	専門分野	120	210	360	420	30	180	1320	48			
	実習	0	45	0	135	810	0	990	22			
	前期・後期小計	510	525	480	615	840	180	3150	126			
	前後期合計	1035	1095	1020								

シラバス

I . 基礎分野

講義科目	統計学		
担当講師	増見 伸		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	基礎的な統計処理を学習し、理学療法及び作業療法に必要な臨床研究の基礎を身につける。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①臨床研究のデザインと研究の信頼性を理解する。②統計の4つの尺度とその意味を理解する。	
2	偏差値	①偏差値とは何か ②標準偏差と編阿智の関係 ③正規分布	
3	有意水準と仮説検定	①有意水準と仮説検定 ②片側検定と両側検定	
4	割合の検定	①二項分布の正規近似 ②p値	
5	t検定	①母集団と標本、平均と分散 ②標準偏差と標準誤差 ③t値とt分布	
6	演習①	練習問題	
7	カイ2乗検定	①観測度数と期待度数 ②カイ2乗検定	
8	推定の考え方	①検定と推定の違い ②中心局限定理	
9	割合と平均値の区間推定	①信頼区間	
10	オッズ比とリスク比	①リスク比の信頼区間 ②オッズ比の信頼区間	
11	演習②	練習問題	
12	相関と回帰	①相関、回帰とは何か ②回帰直線の求め方	
13	感度と特異度	①検定の信頼性 ② α エラーと β エラー ③感度と特異度	
14	統計の限界と誤用	①臨床的に重要とは何か ②定量的な判断	
15	演習③	練習問題	
教科書	書籍名	著者	出版社
	医療統計わかりません!!	五十嵐中, 佐條麻里著	東京図書
参考図書等			
授業方法	統計学の基本的な内容の講義および統計処理の演習を行う。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	統計学は根拠に基づいた証明を実践するため必要不可欠で、科学的根拠に基づくりハビリテーションの基礎となる学問であり興味をもって臨むこと。√のついた計算機を用意すること。		

講義科目	情報処理		
担当講師	本山 晴子		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	コンピューターの基本的操作を学び、文章作成及び表計算ソフトやプレゼンテーションソフトを用いた実習を通じ、研究・レポート作成に必要なデータ処理、統計分析の手法を学習しリハビリテーション研究の基礎を身につける。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	医療行動科学の基本概念 ①医療の行動科学とは何か	①情報システムの仕組みを理解する。 ②クラウドのシステムと使い方を理解する。または、クラウドコンピューティングのシステムと使い方を理解する。	
2	情報セキュリティー (情報モラル、著作権、ネットワークを利用する上での注意点)	①情報セキュリティーについて理解する。 ②SNSリテラシーを理解する。	
3	Windowsの基本操作	①OSについて理解できる。 ②ファイル管理操作ができる。	
4	Word(日本語入力システム、文字の入力、特殊な入力方法)	①正確な文字入力ができる。	
5	Word(文章の入力、保存、印刷設定)	①Wordを用いて文章を入力し、印刷の詳細な設定ができる。	
6	Word(編集、表作成、イラスト挿入)	①Wordを用いてビジネス文書を作成できる。	
7	Excel(データ入力、ワークシート編集)	①表計算ソフトの基本的な操作ができる。	
8	Excel(計算式、グラフ)	①表計算ソフトを用いて計算式を自分で組み立て、それを元にグラフを作成することができる。	
9	Excel(グラフ、関数)	①表計算ソフトを用いて関数を使用し、データ分析ができる。 ②グラフの詳細設定ができる。	
10	Excel(関数)	①表計算ソフトを用いて複雑な関数を使用し、データの加工ができる。	
11	Excel(データベース機能)	①表計算ソフトを用いて大量のデータを効率的に管理できる。	
12	PowerPoint(プレゼンテーションとは、プレゼンテーションソフトの基本操作)	①プレゼンテーションについて説明できる。 ②プレゼンテーションソフトの基本操作ができる。	
13	PowerPoint(ビジュアルツールを利用した効果的なプレゼンテーションの作成)	①視覚的に効果的なツールを使用し、スライドを作成することができる。	
14	PowerPoint(発表技術、配布資料)	①プレゼンテーションを行う際のポイント、配布資料について説明できる。	
15	まとめ	①習熟度にあわせて補足を行う。	
教科書	書籍名		著者
	情報活用コンピュータリテラシー		山崎紅
参考図書等	医療従事者のための情報リテラシー		著:森由紀 監修:中村健壽
			日経BP社
授業方法	授業はテキストを使用し演習形式で行います。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	欠席する等についてこれなくなる事もありますので欠席しないようにして下さい。また、使わないと覚えられませんので積極的にコンピューターを使用して習得しましょう。		

II. 專門基礎分野

講義科目	病理学概論		
担当講師	張 皿		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	①疾患の原因および形態的变化などの基本概念や用語、基本的視点と関連技術に関する知識を捉える ②医療・医学における病理学の役割、意味、位置づけを理解する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	病理学概説、病理学の検査法、病因論	①病理学の意義と検査法について説明できる ②疾患の原因について説明できる	
2	先天異常・奇形	①先天異常・奇形の定義、分類、病態について説明できる	
3	退行性病変、代謝疾患	①退行性病変・代謝障害の種類、病態について説明できる	
4	進行性病変	①進行性病変の種類、病態について説明できる	
5	循環障害	①循環障害の病因、病態について説明できる	
6	炎症	①炎症の定義、病態について説明できる	
7	免疫、感染症	①免疫が関係する疾患の成因、病態について説明できる ②感染の種類について説明できる	
8	腫瘍	①腫瘍の定義、分類、病態について説明できる	
9	循環器系の疾患	①心奇形、虚血性心疾患、動脈硬化症について説明できる	
10	血液、造血器系の疾患	①貧血、白血病について説明できる	
11	呼吸器系の疾患	①肺炎、肺の腫瘍、塵肺症について説明できる	
12	消化器系の疾患	①胃の腫瘍、腸の炎症性疾患、大腸の腫瘍について説明できる ②肝癌、胆石症、膵癌について説明できる	
13	腎、泌尿器、生殖器系の疾患	①腎の腫瘍、泌尿器系の炎症疾患、前立腺の腫瘍、子宮の腫瘍について説明できる	
14	神経系の疾患	①神経系の循環障害、変性疾患、脱髄疾患、腫瘍について説明できる	
15	運動器系の疾患	①萎縮性筋疾患、骨腫瘍について説明できる	
教科書	書籍名	著者	出版社
	はじめの一步の病理学	深山 正久 編	羊土社
参考図書等	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学	大橋 健一	医学書院
授業方法	講義形式。適宜画像を供覧。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験
履修上の注意	国家試験にも出題される科目であると共に、疾病の成り立ちを理解するうえで重要な科目である。また、細胞の病理学的変化はPT・OT評価に通じる基礎知識となるので、しっかりと理解するようにして下さい。		

講義科目	整形外科学		
担当講師	新行橋病院医師		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	リハビリテーション対象疾患について疫学及び予後、病因と症状・検査及び治療を理解する。		
講義計画(講義内容を含む)			
1	整形外科基礎知識	①正常な骨の発生と成長及び基本構造を理解する。 ②骨の修復と再生、骨の加齢変化について理解する。 ③関節・骨格筋・神経系の基本構造を理解する。	
2	整形外科的治療法	①診療の基本と検査の概要を知る。 ②保存療法の種類・目的・方法の概要を知る。 ③代表的な基本的手術法を知る。	
3	外傷総論	①捻挫と脱臼の違いを理解する。 ②骨折の分類と治癒過程を理解する。 ③骨折の症状・合併症及び治療の原則を理解する。	
4	骨折と脱臼①上肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。	
5	骨折と脱臼②下肢 (小児骨折含む)	①受傷機転、好発部位、年齢、転位、合併症、治療を理解する。	
6	末梢神経損傷	①末梢神経損傷の分類及び特徴、病態像を理解する。 ②末梢神経損傷の診断と治療を理解する。	
7	靭帯損傷	①代表的な靭帯損傷の症状・診断・治療を理解する。	
8	脊椎疾患	①頸椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。 ②胸腰椎疾患の検査、症状、年齢、治療を理解する。	
9	脊髄損傷	①脊髄損傷の概念を理解する。 ②脊髄損傷の受傷機転、病態を理解する。	
10	脊髄損傷	①脊髄損傷の症状を理解する。 ②脊髄損傷の治療を理解する。	
11	炎症性疾患	①軟部組織・骨・関節の感染症の代表的な疾患を理解する。 ②関節リウマチの症状・診断及び治療の概要を理解する。 ③関節リウマチ類似疾患を理解する。	
12	慢性関節疾患(退行性・代謝性)	①変形性関節症の病態・症状及び治療を理解する。 ②痛風の病態・症状及び治療を理解する。	
13	代謝性骨疾患	①骨粗鬆症の病態・症状及び治療を理解する。 ②くる病・骨軟化症の病態及び治療を理解する。	
14	骨・軟部組織腫瘍 熱傷・切断	①骨腫瘍・軟部組織腫瘍の発生及び治療を理解する。 ②熱傷の深度と範囲による重症度、関節拘縮や変形を理解する。 ③切断の概念・評価・断端管理、合併症を理解する。	
15	先天性骨関節疾患 循環障害と壊死性疾患	①代表的な先天性骨関節疾患の病態を理解する。 ②四肢の循環障害、壊死性疾患の病態及び症状を理解する。	
教科書	書籍名		著者
	標準整形外科		内田 淳正
参考 図書等			出版社 医学書院
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方 法	定期試験
履修上の 注意	理学療法、作業療法臨床において対象となることの多い疾病であり、専門領域につながる重要な科目である。暗記だけでなく、疾病の成り立ちを理解するよう復習をして下さい。		

講義科目	内科学		
担当講師	新行橋病院医師		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	内科疾患について疫学及び予後、病因と症状(疾病の成り立ち)、検査および代表的な治療を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	内科学とは 内科的診断と治療の実際	①内科学の概念について理解する。 ②内科的診断における診察法とその臨床的意義について理解する。 ③臨床検査について、その内容、実施方法、意義を理解する。	
2	症候学	①主要な症候の概念とそのメカニズムを理解する。 ②主要な症候を生じる病態とその関連疾患を学習する。	
3	循環器疾患 ①	①虚血性心疾患、高血圧の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②虚血性心疾患、高血圧をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を知る。	
4	循環器疾患 ②	①正常な12誘導心電図を理解する。 ②主な不整脈について波形の特徴、循環動態を理解する。	
5	循環器疾患 ③	①主要な循環器疾患の概念、病理、症状、臨床所見、検査、治療について理解する。 ②循環器疾患をもつ患者の理学療法・作業療法を実施する際の留意点を学修する。	
6	呼吸器疾患 ①	①呼吸機能を測定する検査法と基準値について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。	
7	呼吸器疾患 ②	①主要な呼吸器疾患の概念、病態生理、症状、検査、治療および予後について理解する。 ②呼吸リハビリテーションについて知る。	
8	消化管疾患	①主要な消化管疾患の症候、病態生理について理解する。 ②主な消化管疾患の概念、診断法、症状、治療法について知る。	
9	肝胆膵疾患	①主要な肝臓、胆道、膵臓、腹膜疾患の症候、病態生理、症状について理解する。 ②主な肝臓、胆道系、膵臓、腹膜疾患の検査法、治療法を知る。	
10	血液・造血器疾患	①貧血、リンパ節腫脹、出血性病変などの主な症状について知る。 ②主要な血液疾患の概念、病態、診断法、予後について理解する。	
11	代謝性疾患 ①	①糖代謝、蛋白質代謝、脂質代謝のつながりを知る。 ②糖尿病、痛風の病態と臨床的特徴を理解する。	
12	代謝性疾患 ②	①主要な代謝性疾患の病態と臨床的特徴を理解する。 ②ビタミン欠乏症・過剰症の臨床的特徴を理解する。	
13	内分泌疾患	①ホルモンの作用機序を理解する。 ②主要な内分泌疾患の概念、病態、治療法を学修する。	
14	腎・泌尿器疾患 アレルギー疾患	①腎機能が障害されて起こる症状を理解する。 ②主要な腎疾患、泌尿器疾患の概念、病態、症状、検査法、治療法について理解する。 ③アレルギー反応の I ~ V 型の生じ方と関連疾患について理解する。	
15	膠原病と類縁疾患、免疫不全症	①主要な膠原病と類縁疾患の症状、診断、治療について理解する。 ②免疫不全による疾患について理解する。	
教科書	書籍名		著者
	標準理学療法学・作業療法学 内科学		大成 浄志
参考 図書等	病気がみえる vol.1 消化器		医療情報科学研究所(編集)
	病気がみえる vol.2 循環器		医療情報科学研究所(編集)
授業 方法	講義形式 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法 定期試験
	病気がみえる vol.4 呼吸器		
履修上の 注意	近年、内科領域のリハビリテーションの重要性が高まっており専門分野の基礎となる重要な科目です。国家試験に出題されることの多い疾患を中心に疾病の成り立ちを理解するよう心がけて下さい。		

講義科目	神経内科学		
担当講師	新小文字病院医師	梶島 真理	授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	単位数 2
教育目標	各疾患の疫学及び予後、病因と症状、検査及び治療を理解する。		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	神経内科学オリエンテーション	①神経内科学を学ぶ目的を理解する。 ②中枢神経と末梢神経の違いを理解する。	
2	神経学的検査と臨床検査①	①脳の構造と機能の概要を理解する。 ②画像診断の基礎知識と診断基準を理解する。	
3	神経学的検査と臨床検査②	①脳脊髄液の検査と診断基準を理解する。 ②脳神経検査、身体機能検査の診断基準を理解する。	
4	神経症候学(1)	①頭蓋内圧亢進症状を理解する。 ②上位運動麻痺と下位運動麻痺の違いを理解する。 ③筋萎縮を理解する。	
5	神経症候学(2)	①錐体外路の機能を理解する。 ②錐体外路徴候を理解する。 ③錐体路徴候と錐体外路徴候の違いを理解する。	
6	神経症候学(3)	①運動失調の原因と病態を理解する。 ②運動麻痺と運動失調の違いを理解する。 ③感覚障害の分布と特徴を理解する。	
7	脳血管障害(1)	①脳血管障害の分類及び危険因子、病態を理解する。 ②脳血管障害の診断と治療の概要を理解する。	
8	脳血管障害(2)	①脳出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ②くも膜下出血の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。 ③脳梗塞の発生機序、診断と治療及び予後、疫学等を理解する。	
9	脳血管障害(3)	①水頭症の発生機序、診断と治療を理解する。 ②慢性硬膜下血腫の発生機序、診断と治療を理解する。 ③脳外傷の発生機序、分類、診断と治療を理解する。	
10	髄膜炎・脳腫瘍	①髄膜炎の病態及び症状を理解する。 ②脳腫瘍の部位と好発年齢及び予後の関係を理解する。 ③脳腫瘍の診断と治療を理解する。	
11	認知症	①認知症を伴う代表的な疾患を理解する。 ②脳血管性認知症とアルツハイマー病の違いを理解する。 ③代表的な認知症疾患の病態及び症状の特徴を理解する。	
12	変性疾患(1)	①パーキンソン病の病態及び症状を理解する。 ②パーキンソン症候群の病態及び症状を理解する。 ③パーキンソン病とパーキンソン症候群の違いを理解する。	
13	変性疾患(2)	①脊髄小脳変性症の病態及び症状を理解する。 ②多系統萎縮症の病態及び症状を理解する。	
14	脱髄疾患	①脱髄疾患の病態を理解する。 ②多発性硬化症の症状を理解する。 ③ギランバレー症候群の症状を理解する。	
15	神経筋疾患	①筋萎縮性側索硬化症の病態と症状を理解する。(神経原性) ②筋ジストロフィー症(典型例)の病態と症状を理解する。(筋原性) ③重症筋無力症の病態と症状を理解する。(神経筋接合部)	
教科書	書籍名		著者
	標準理学療法学・作業療法学 神経内科学 病気がみえる vol.7 脳・神経		川平 和美 編 医療情報科学研究所
参考 図書等			出版社
			医学書院 メディックメディア
授業 方法	教科書にそって講義を行う。適宜画像を提示。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方 法	定期試験
履修上の 注意	解剖生理学に関わらせながら授業の復習を行い確実に理解を深めて下さい。神経内科に関連する基礎・専門は国家試験出題率が高い領域です。		

Ⅲ. 作業療法学科専門分野

講義科目	基礎作業学Ⅲ		
担当講師	橋本 知美		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科2年前期	実務経験 在宅領域での実務経験あり 単位数 1
教育目標	①様々な作業療法場面で用いられる作業活動と評価(分析・解釈)、介入方法を具体的に知る ②生活を捉える、治療的に作業を用いる視点を知る		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	限定的作業分析とその例	限定的作業分析の方法を知る	
2	限定的作業分析とその例	限定的作業分析の方法を知る	
3	運動とプロセス技能評価と作業療法	運動とプロセス技能評価を用いた作業療法の実際を知る	
4	運動とプロセス技能評価を用いた演習	運動とプロセス技能評価を用いた生活技能の分析を体験する	
5	運動とプロセス技能評価を用いた演習とまとめ	運動とプロセス技能評価を用いた生活技能の分析を体験し理解する	
6	発達と作業活動	ごっこ遊び(ゲーム)の作業分析ができる	
7	発達と作業活動	ごっこ遊び(ゲーム)の作業分析から治療的活用法を考える	
8	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析ができる	
9	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析ができる	
10	認知行動と作業活動	セルフケア(更衣)の作業分析から治療的応用を考える	
11	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析ができる	
12	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析ができる	
13	役割と遂行にかかわる作業活動	家事動作(調理)の作業分析から治療的応用を考える	
14	目的に応じた作業活動	年中行事の作業分析をし、治療的応用を考える	
15	作業分析と治療的応用	作業活動の分析方法、治療的応用を理解する	
教科書	書籍名		著者
	作業活動実習マニュアル		古川 宏
参考図書等	ゴールドマスター 改訂第2版 作業学 COPM・AMPSスターティングガイド 標準作業療法学 専門分野 基礎作業学		長崎重信 監修 吉川ひろみ 著 濱口豊太(編)
			MEDICAL VIEW 医学書院 医学書院
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	提出課題、授業への取り組み方を総合的に判断し、評価を行う
履修上の注意	講義の聴講で完結するのではなく、それぞれの演習を通じて作業療法士がどのような視点で評価・分析・介入を行うのかを考えながら取り組むこと		

講義科目	生活機能演習					
担当講師	本田 芙紗子			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	1
教育目標	生活行為向上マネジメントの概要、基本的な実施手順について理解する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	生活行為向上マネジメント 概要	生活行為向上マネジメントの背景や理論的位置づけ、用語の整理について理解する				
2	生活行為向上マネジメント 考え方	生活行為の考え方と、生活行為生活行為の障害について説明できる。				
3	生活行為向上マネジメント プロセス①	プロセ	生活行為向上マネジメントのプロセスである、インテークについてその内容と流れを理解し、説明できる。			
4	生活行為向上マネジメント プロセス②-1	プロセ	生活行為向上マネジメントのプロセスである、アセスメントについてその内容と流れを理解する。 (基本情報の収集とICF分析、予後予測、本人・家族との合意形成)			
5	生活行為向上マネジメント プロセス②-2	プロセ	生活行為向上マネジメントのプロセスである、アセスメントについてその内容と流れを理解する。 (基本情報の収集とICF分析、予後予測、本人・家族との合意形成)			
6	生活行為向上マネジメント プロセス③-1		生活行為向上マネジメントのプロセスである、解決すべき課題の抽出と設定について、その内容と流れを理解する			
7	生活行為向上マネジメント プロセス③-2		生活行為向上マネジメントのプロセスである、解決すべき課題の抽出と設定について、その内容と流れを理解する			
8	生活行為向上マネジメント プロセス④-1		生活行為向上マネジメントのプロセスである、プランニングについてその内容と流れを理解する			
9	生活行為向上マネジメント プロセス④-2		生活行為向上マネジメントのプロセスである、プランニングについてその内容と流れを理解する			
10	生活行為向上マネジメント プロセス⑤		生活行為向上マネジメントのプロセスである、プラン実行とモニタリング、計画修正・生活行為の引継ぎについて、その流れや具体的な内容を理解する			
11	生活行為向上マネジメント 模擬事例1-1)		模擬事例を通した、一連の生活行為向上マネジメントのプロセス理解し、各シートの記載が出来る。			
12	生活行為向上マネジメント 模擬事例1-2)		模擬事例を通した、一連の生活行為向上マネジメントのプロセス理解し、各シートの記載が出来る。			
13	生活行為向上マネジメント 模擬事例1-3)		模擬事例を通した、一連の生活行為向上マネジメントのプロセス理解し、各シートの記載が出来る。			
14	生活行為向上マネジメント 模擬事例 まとめ		模擬事例について発表を通し生活行為向上マネジメントに沿って説明することができる			
15	生活行為向上マネジメント 模擬事例 まとめ		模擬事例について発表を通し生活行為向上マネジメントに沿って説明することができる			
教科書	書籍名		著者	出版社		
	OTマニュアル 66 生活行為向上マネジメント		日本作業療法士協会	中央法規出版		
参考 図書等						
授業 方法	必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方 法	提出課題、授業への取組み方を総合的に判断し、評価を行う		
履修上の 注意						

講義科目		基礎評価学演習Ⅲ				
担当講師		柁島 真理		授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	一般病院(身体障害分野)での実務経験あり	単位数	1
教育目標		①作業療法場面で活用される検査法について理解する ②各検査法の理論背景と生体における反応様式について理解し、実際の検査を施行することができる				
No.	講義計画		行動目標(学習目標)			
1	反射・筋緊張検査		①反射の種類とメカニズムを説明できる②反射検査の目的と意義を説明できる③筋緊張の異常とメカニズムを説明できる④筋緊張検査の目的と意義を説明できる			
2	反射・筋緊張検査		①反射の検査の一部を実施し、結果を記録できる②実施した検査結果についての解釈ができる			
3	反射・筋緊張検査		①筋緊張検査の一部を実施し、結果を記録できる②実施した検査結果についての解釈ができる			
4	協調性検査		①協調運動障害の種類とメカニズムを説明できる②協調性検査の目的と意義を説明できる③検査結果から障害の原因を推察できる			
5	協調性検査		①協調性検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
6	片麻痺機能検査		①片麻痺の運動機能回復の特徴を説明できる②片麻痺機能検査の目的・意義を説明できる③検査結果から運動機能の回復段階がわかる			
7	片麻痺機能検査		①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
8	片麻痺機能検査		①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
9	片麻痺機能検査		①片麻痺機能検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
10	姿勢バランス		①姿勢バランスに関する用語の説明ができる②姿勢バランスを構成する機能要素を説明できる③姿勢反射の種類と統合レベルの説明ができる			
11	姿勢バランス		①バランス検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
12	姿勢バランス		①バランス検査の目的・対象者・検査項目を説明できる②検査の一部を実施し、結果を記録できる③実施した検査結果についての解釈ができる④検査に伴うリスクを述べる事ができる			
13	摂食・嚥下検査		①摂食・嚥下機能のメカニズムを説明できる②摂食嚥下機能検査の目的と意義を説明できる③摂食・嚥下機能検査の方法を説明できる			
14	摂食・嚥下検査		①摂食・嚥下機能のメカニズムを説明できる②摂食嚥下機能検査の目的と意義を説明できる③摂食・嚥下機能検査の方法を説明できる			
15	画像検査		①評価に必要な画像診断の種類を知る(VE/VF 脳画像 X線画像) ②各画像検査法の特徴と対象となる疾患について説明できる ③画像検査における異常所見がわかる(正常画像との比較ができる)			
教科書	書籍名		著者		出版社	
	神経診察クローズアップ リハビリテーション基礎評価学 病気が見えるVol.7 脳・神経		鈴木則宏 潮見 泰茂, 下田 信明 編集 医療情報科学研究所		MEDICAL VIEW 羊土社 メディックメディア	
参考図書等	PTOTのための測定評価5 バランス評価 診察と手技がみえるVol.1 ベッドサイドの神経の診かた		監修 福田修 古谷伸之 編集 田崎義昭		三輪書店 MEDICAL VIEW 南山堂	
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	毎回の評価対象や検査内容について復習し理解しておく					

講義科目	基礎評価学演習Ⅳ		
担当講師	枕島 真理		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験 一般病院(身体障害分野)での実務経験あり 単位数 1
教育目標	①作業療法評価における基礎概念を学び、モデルケースで全体像を把握し現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	オリエンテーション 作業療法における評価とは	① 作業療法の評価の一連の流れがイメージでき、説明できる ② 作業療法評価の位置づけ、目的を説明できる言える ③ 身体面・精神面の評価の種類を言える	
2	評価の基礎① 情報収集(カルテ・他部門)	① 評価計画を立て、優先順位をつけることができる ② 情報の種類と収集の目的が言える ③ 他職種を持つ情報について説明できる	
3	評価の基礎② 面接と観察	① 面接・観察により評価できる内容を説明できる ② 面接の内容を想定できる・観察の視点を焦点化できる ③ 信頼関係、対人距離について説明できる	
4	評価の基礎③ 検査・測定	① 運動機能・神経学的評価の内容と目的を列挙できる ② ADL・IADL評価の内容と目的を列挙できる ③ 精神・心理評価の内容と目的を列挙できる	
5	評価の基礎④ 統合と解釈および現状能力と生活を妨げている要因の分析	① 集めた情報の統合と解釈ができる ② 問題点を列挙し優先順位を考慮することができる ③ ICFの各項目間のつながりと影響を説明できる	
6	評価の基礎⑤ 目標及び治療計画の設定 治療プログラムの立案	① 目標及び治療計画を設定することができる ② 治療プログラムを立案できる ③ 段階づけや将来像を考慮し説明できる	
7	評価の基礎⑥ 記録の仕方	① 記録方法・手段を適切に選び、表現できる ② 記録の方法と情報の取り扱いについて説明できる	
8	意識・コミュニケーションの評価 意識レベルの評価 コミュニケーションの評価	① 意識レベル・コミュニケーションの評価ができる ② 理解・表出・注意のコミュニケーションへの影響を説明できる	
9	姿勢評価① 姿勢の診かたと記載方法	① 観察による評価の概要、意義、方法を説明できる ② 姿勢評価の観察ポイントを列挙できる ③ 観察評価の具体的方法を説明できる	
10	姿勢評価② 姿勢評価(演習)	① 姿勢評価の概要、意義、方法を説明できる ② 観察による姿勢評価を実施できる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる	
11	動作分析と記載方法① 動作の診かたと記載方法	① 動作分析(観察)の評価の概要、意義、方法を説明できる ② 動作の観察ポイントを列挙できる ③ 記録方法を選び、実施できる	
12	動作分析と記載方法② 動作分析と記載(演習)	① 観察を行い、観察ポイントを列挙できる ② 記載方法を選択し、表現できる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる	
13	ADL観察と記載方法 ADL観察と記載(演習)	① 実際のADLの一連の動作の観察を行う ② 観察内容から作業遂行機能、日常生活について評価の体験ができる ③ 観察評価の結果を適切な方法で記録できる	
14	活動の観察と記載方法 活動の観察と記載(演習)	① 作業活動模擬場面の観察を行い、観察ポイントを列挙できる ② 観察内容から作業遂行機能、日常生活について評価の体験ができる ③ 評価結果の解釈を行い、学生間で討議できる	
15	まとめ 1回～14回の復習とポイント	① 作業療法の評価の一連の流れを説明できる ② 作業療法評価の位置づけ、目的を説明できる	
教科書	書籍名	著者	出版社
	標準 作業療法評価学 リハビリテーション基礎評価学 日常生活活動	能登真一 他 潮見泰蔵 千住 秀明	医学書院 羊土社 神陵文庫
参考図書等	作業療法の面接技法 COPM・AMPSスターティングガイド 姿勢・動作・歩行分析	香山明美・小林正義 編集 吉川ひろみ 著 畠中泰彦 編集	三輪書店 医学書院 羊土社
	授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法 定期試験にて評価する。
履修上の注意	どのような視点で各種評価が行われているか、演習を通して理解する		

講義科目	日常生活活動学演習Ⅱ					
担当講師	二階堂 晴江			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	1
教育目標	①ADL・IADL評価の意義と代表的ADL検査のバーセルインデックス、FIMの基本的検査方法を理解する ②事例を通して基本動作、セルフケア、IADLの結びつきについて理解を深め、それぞれ援助の重要性について学ぶ					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	ADL評価、IADL評価の概要	ADL評価、IADL評価の意義と方法を理解する。評価表の特徴がわかる。バーセルインデックスとFIMの概要を理解する				
2	ADL評価	FIMの概要を理解する(評価項目・採点方法)				
3	ADL評価	FIMの運動項目の採点方法を理解する。事例をもとに採点方法を理解する				
4	ADL評価	FIMの認知項目の採点方法を理解する。事例をもとに採点方法を理解する				
5	起居動作について	起居・移乗・移動動作を構成する動作について理解する				
6	起居動作について	起居動作の実技を通し動作の特徴を理解する				
7	片麻痺患者の起居動作について	片麻痺患者の起居動作について、阻害因子や支援するポイントを理解する				
8	移乗動作について	移乗動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する				
9	移乗動作について	移乗動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、自立度別に支援するポイントを理解する				
10	片麻痺患者の移乗動作について	片麻痺患者の移乗動作について、阻害因子や支援するポイントを理解する				
11	移動動作について	杖・歩行器を使用した動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する				
12	移動動作について	車椅子を使用した動作の実技を通し動作の特徴や阻害因子、支援するポイントを理解する				
13	片麻痺患者の移動動作について	片麻痺患者の移動動作について、阻害因子や支援するポイントを理解する				
14	基本動作、ADLとIADL	事例を通し、基本動作、ADLとIADLの結びつきについて説明できる				
15	基本動作、ADLとIADL	事例を通し、基本動作、ADLとIADLの結びつきについて説明できる				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	日常生活活動		千住 秀明		神陵文庫	
参考図書等	脳卒中の機能評価—SIASとFIM(基礎編) ゴールドマスター 改訂第2版 日常生活活動学(ADL) ADLとその周辺		千野直一他 木之瀬 隆 編 伊藤利之		金原出版株式会社 MEDICAL VIEW 医学書院	
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	自分自身やクラスメートの体験をもとに再確認し分析を通して理解を深めること					

講義科目	装具学		
担当講師	亀田 秀一		授業時間数 30
開講年次	昼間コース 作業療法学科2年前期	実務経験	身体障害者領域の病院での実務経験あり 単位数 1
教育目標	①装具療法の概要を学び、疾患別の装具の適応について理解する ②装具の採型から作成、適合判定の過程を理解する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	装具の法制度と原則・分類について	① 補装具(義肢装具)の支給にかかわる法制度を説明できる ② 装具とは何か説明できる ③ 装具の基本原則と分類を説明できる	
2	下肢装具について	① 下肢装具の分類を説明できる ② 下肢装具を構成する部品名とその使用目的を説明できる	
3	体幹装具について	① 体幹装具の分類を説明できる ② 体幹装具を構成する部品とその使用目的を説明できる	
4	上肢装具について	① 上肢装具の目的を説明できる ② 上肢装具を構成する部品の特徴・使用目的を説明できる	
5	脳血管障害の装具療法	① 脳血管障害の主な上肢装具とその特徴を説明できる ② 脳血管障害の主な下肢装具とその特徴を説明できる ③ 片麻痺の回復段階に沿った装具の適応について説明できる	
6	関節リウマチの装具療法	① 関節リウマチ変形に適した装具をあげることができる	
7	末梢神経損傷の装具療法	① 橈骨神経麻痺に適した装具をあげることができる ② 尺骨神経麻痺に適した装具をあげることができる ③ 正中神経麻痺に適した装具をあげることができる	
8	頸髄損傷の装具療法	① 頸髄損傷の残存機能に適した装具をあげることができる ② 胸腰髄損傷のレベルと適応する装具を挙げることができる	
9	スプリント製作の基本的流れ	① スプリント製作の基本的な流れを説明できる	
10	多目的トレース法と各種スプリント	① 多目的トレース法とは何か説明できる ② 様々なスプリントの型紙を作成しその名称をあげることができる	
11	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる	
12	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる	
13	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる	
14	スプリント製作の実施	① 実際にスプリントを製作し、製作過程と適合判定を説明できる	
15	まとめ	① 国家試験問題を通してポイントを整理できる	
教科書	書籍名	著者	出版社
	義肢装具学	川村次郎 他	医学書院
参考図書等	義肢装具のチェックポイント 作業療法学全書 改訂第2版 義肢装具学 手のスプリントのすべて	日本整形外科学会・日本リハビリテーション医学会 監修 日本作業療法士協会 監修 矢崎 潔	医学書院 協同医書出版 三輪書店
授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	特に上肢装具において変形と装具の関係を理解するよう学習を進めて下さい		

講義科目	高齢期の作業療法					
担当講師	諫山 歩			授業時間数	30	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	1
教育目標	①高齢期における発達過程について理解できる ②高齢期障害を引き起こす主な疾患の原因・病態生理・症候・診断と治療を学ぶ					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	高齢期における生理的老化	①高齢期における身体構造の変化について説明できる				
2	高齢期における生理的老化	①高齢期における生理機能の変化について説明できる				
3	高齢期における生理的老化	①高齢期における心理・社会的変化について理解できる				
4	高齢期障害と疾患・症候・診断治療	①高齢期障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ				
5	高齢期障害と疾患・症候・診断治療	①高齢期障害を引き起こす主な疾患の原因、病態生理、症候、診断と治療を学ぶ				
6	認知症の作業療法	①生理的老化と認知症の違いを理解する				
7	認知症の作業療法	①認知症の原因と分類・症状の違いを理解する				
8	認知症の作業療法	①認知症の評価各種評価スケールを学ぶ ②評価スケールの実技演習				
9	認知症の作業療法	①認知症の評価各種評価スケールを学ぶ ②評価スケールの実技演習				
10	認知症の作業療法	①認知症の高齢者との面接場面から特性を理解する				
11	認知症の作業療法	①認知症の薬物療法・非薬物療法について学ぶ				
12	認知症の作業療法	①認知症のケアの原則を理解する				
13	認知症の作業療法	①認知症高齢者への作業療法の目標を理解する				
14	認知症の作業療法	①認知症高齢者への作業療法の治療的態度と治療手段を理解する				
15	認知症の作業療法	①認知症を含む高齢者への社会資源と地域資源を知る				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	認知症の作業療法		小川敬之・武田徳則 編		医歯薬出版	
参考図書等	標準作業療法学 専門分野 高齢期の作業療法学 高齢者のための知的機能検査の手引き		編集 松房利憲 小川恵子 監修 大塚俊男 本間昭		医学書院 株式会社 ワールドプランニング	
	授業方法	講義・演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	グループディスカッション・ペアでの演習に自主的・積極的に参加し発言すること					

講義科目		中枢神経疾患の作業療法学 I					
担当講師		柁島 真理		授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	作業療法学科	2年前期	実務経験	一般病院(身体障害分野)での実務経験あり		
教育目標		①身体障害分野において対象となる疾患の病態・特徴・関連して現れる症状を理解する ②病態から必要となる評価とその意味を知り、治療・訓練へのアプローチなど作業療法実施における過程を知る					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	脳と神経の基礎知識	①錐体路障害・錐体外路障害・小脳障害の概要 ②上位・下位運動ニューロン障害の違い		16	グループワーク	調べ学習と情報の整理	
2	脳と神経の基礎知識	③脳損傷と神経症状の概要		17	グループワーク	調べ学習と情報の整理	
3	画像所見	CT、MRI画像について		18	グループワーク	発表・実演・配布資料の準備	
4	脳血管障害の病態	①NINDS分類について②診断と治療の概要③病期について④意識障害について		19	グループワーク	発表・実演・配布資料の準備	
5	脳血管障害の障害像と機能的予後	①運動障害と知覚障害の概要②高次脳機能障害・知的障害等の概要③目標設定と機能的予後		20	グループワーク	発表1～4班(上肢機能)	
6	脳血管障害の評価	①運動機能・感覚・知覚、平衡機能、上肢機能の評価②その他の評価		21	グループワーク	発表5～8班(上肢機能)	
7	急性期の脳血管障害 ①OT概要	①急性期リハにおける作業療法目的②急性期のスクリーニングテスト③急性期のリスク管理		22	グループワーク	1～3班(基本動作とADL)	
8	急性期の脳血管障害 ②OTの実際	①廃用症候群②ポジショニングの方法及び留意点③関節可動域訓練		23	グループワーク	発表4～6班(基本動作とADL)	
9	回復期の脳血管障害 ①OT概要	①回復期リハにおける作業療法目的②作業療法評価の項目③回復期のリスク管理		24	グループワーク	発表7～8班(基本動作とADL)補足とフィードバック	
10	回復期の脳血管障害 ②身体機能訓練	①機能回復訓練②上肢機能回復訓練、自己管理の方法の概要③ストレッチとROM訓練		25	まとめ	補足説明と共有化	
11	回復期の脳血管障害 ③生活活動技能訓練	①基本動作の訓練・指導方法について		26	まとめ	補足説明と共有化	
12	回復期の脳血管障害 ④生活活動技能訓練	①ADLの訓練・指導方法について		27	まとめ	補足説明と共有化	
13	回復・維持期の脳血管障害 ⑤生活活動技能訓練	①IADL・社会的技能における訓練・指導方法について②自助具、装具、住環境について		28	錐体外路系障害①パーキンソン病の病態及び評価	①4徴候について ②症状がADLに与える影響について ③評価項目の列挙 ④ヤールの分類について	
14	合併症について	肩関節亜脱臼・肩手症候群・疼痛(視床痛)・自発性の低下・失禁など(前頭葉症状)		29	錐体外路系障害②パーキンソン病のOTの実際	①作業療法の目的及び介入の基本原則②ADL指導の留意点	
15	グループワーク	片麻痺患者の作業療法①上肢機能訓練②基本動作訓練③ADL訓練について調べ発表する		30	錐体外路系障害③パーキンソン病と脳血管性パーキンソニズム	①症状の違いについて ②作業療法介入方法の違いについて	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 ADLとその周辺		菅原洋子 長崎重信 監修・編集 伊藤利之		協同医書出版社 協同医書出版社 医学書院		
参考図書等	絵でみる脳と神経 ーしくみと障害のメカニズムー 病気が見える vol7 脳・神経		馬場 元毅 医療情報科学研究所		医学書院 メディックメディア		
	ゴールドマスター改訂第2版 作業療法評価学 図解 作業療法技術ガイド		長崎重信 監修・編集 石川齊 古川宏		MEDICAL VIEW 文光堂		
授業方法	アクティブラーニングで(グループワーク)上肢機能訓練やADL訓練をまとめ発表。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。			
履修上の注意	初回到グループワークの指示を行います 発表に間に合うように準備を進めること 授業をただ聞くだけでなく自ら考え・調べる学習を行うよう望みます						

講義科目	中枢神経疾患の作業療法学Ⅱ			
担当講師	花島 真理	桑原 健志	授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療学科 2年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり
教育目標	①脊髄損傷の症状及び治療の概要を理解する ②髄節レベルに応じた運動機能及びADL機能について理解し、評価及び治療の方法を理解する			
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		
1	小脳系障害① 病態及び評価	①小脳症状の理解 ②症状がADLに与える影響③運動失調の評価について④ロンベルグ徴候について		
2	小脳系障害② OTの実際	①作業療法の目的及び介入の基本原則 ②ADL指導の留意点		
3	神経・筋疾患(MS)に対する作業療法とADL	多発性硬化症(MS)の病態を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する		
4	神経・筋疾患(GBS)に対する作業療法とADL	ギランバレー症候群(GBS)の病態と障害像を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する		
5	神経・筋疾患(ALS)に対する作業療法とADL	筋委縮性側索硬化症(ALS)の病態と障害像を説明できる 作業療法の目的及び介入の基本原則を説明できる ADLの支援について理解する		
6	実技	神経筋疾患と小脳障害・錐体外路症状に対する評価と治療の実際を理解する		
7	脊椎・脊髄構造について 脊髄損傷のタイプと病態	基本的な脊椎・連結(靭帯)・脊髄の構造と脊髄横断面をもとに各伝導路と自律神経、脊髄神経を説明することができる。脊髄損傷の病態と主な症状、合併症、随伴症状について説明できる。		
8	脊髄損傷における評価 脊髄損傷の障害発生から予後まで	脊髄損傷の運動障害、感覚障害、自律神経障害、尿路障害、呼吸障害の概要を理解する。完全麻痺と不完全麻痺に臨床像の特徴を理解する。ザンコリーの分類、フランケルの分類、ASIA機能障害尺度等の脊髄損傷で用いる代表的評価尺度を説明することができる。		
9	頸髄節レベルにおける(C4, 5)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄4・5の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。		
10	頸髄節レベルにおける(C4, 5)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄4・5の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを述べるができる。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。		
11	頸髄節レベルにおける(C4, 5)ADL訓練の実際と自助具	頸髄節レベルごとのADL動作と自助具の利用を実際に体験し、その特徴と各髄節レベルの違いを理解し説明できる。(※グループワーク)		
12	頸髄節レベルにおける(C6, 7)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄6・7の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを述べることができる。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。		
13	頸髄節レベルにおける(C6, 7)残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄損傷の頸髄6・7の各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。		
14	頸髄節レベルにおける(C6, 7)ADL訓練の実際と自助具	頸髄節レベルごとのADL動作と自助具の利用を実際に体験し、その特徴と各髄節レベルの違いを理解し説明できる。(※グループワーク)		
15	頸髄節レベル(C8)、腰仙髄レベルにおける残存機能と基本動作、可能なADL	頸髄節レベル(C8)、腰仙髄レベルの各髄節レベル損傷における状態の違いと到達目標のADLの違いを理解する。治療目標設定、必要な自助具や装具、環境設定を含めたアプローチ方法について説明できる。		
教科書	書籍名		著者	出版社
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学		編集 菅原洋子 長崎重信 監修・編集	協同医書出版社 MEDICAL VIEW
参考図書等	頸髄損傷のリハビリテーション 脊髄損傷 ー包括的リハビリテーションー 病気が見えるVol.7 脳・神経 脊髄損傷の理学療法		津山直一 監修 二瓶隆一・木村哲彦・陶山哲夫編集 初山泰弘 二瓶隆一(編) 編集:医療情報科学研究所 武田 功	協同医書出版社 医学書院 MEDIC MEDIA 医歯薬出版株式会社
	授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	授業ごとの知識の確認と復習はもちろんであるが常に疑問を持ち主体的に授業に参加すること			

講義科目		運動器疾患の作業療法学					
担当講師		亀田 秀一 橋本 知美		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース 作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害者領域の病院で実務経験あり	単位数	2	
教育目標		整形疾患(骨折、関節疾患、末梢神経損傷、腱損傷など)の原因、病理、症状を理解し、作業療法評価および治療の選択ができる					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	末梢神経障害	末梢神経の解剖・生理について理解する		16	骨折	3大骨折(腰椎圧迫骨折)の病態と治療を理解し、説明できる	
2	末梢神経障害	上肢機能を支配する末梢神経について理解する		17	退行性疾患	変形性膝関節症について、病態や特徴、症状、治療について、説明できる	
3	末梢神経障害	神経損傷の原因、分類について説明することができ、修復過程や修復方法(機能再建術)について説明できる		18	退行性疾患	頸椎症性脊髄症について、病態や特徴、症状、治療について、説明できる	
4	末梢神経障害	各神経損傷(主に正中神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる		19	手外科疾患	手外科疾患の特徴、合併症、治療を理解する上で必要な手の機能解剖について理解する	
5	末梢神経障害	各神経損傷(主に尺骨神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる		20	手外科疾患	手の屈筋腱損傷の特徴、合併症、治療を理解する	
6	末梢神経障害	各神経損傷(主に橈骨神経麻痺)の機能解剖および損傷の病因、病理、症状を理解し、評価・治療の選択ができる		21	手外科疾患	手の屈筋腱損傷の特徴、合併症、治療を理解する	
7	末梢神経障害	各種検査方法と評価の手順を経験する		22	手外科疾患	手の屈筋腱損傷と評価	
8	末梢神経障害	各種検査方法と評価の手順を経験する		23	関節リウマチ	関節リウマチの定義、病態について理解する	
9	骨折	骨折の定義、分類、治癒過程、合併症、骨折治療の基本原則を理解し、説明できる		24	関節リウマチ	関節リウマチの経過、分類、特徴的変形について、理解する	
10	骨折	骨折の二次障害の発生の機序と対応方法を理解し、評価・治療の選択ができる		25	関節リウマチ	関節リウマチの機能障害とADLへの対応について理解し、説明できる	
11	骨折	3大骨折(大腿骨頸部骨折)の病態と治療を理解し、説明できる		26	関節リウマチ	関節リウマチの評価治療について説明できる	
12	骨折	3大骨折(大腿骨頸部骨折)の病態と治療を理解し、説明できる		27	肩関節疾患	腱板損傷の症状・評価、治療について理解し、説明できる	
13	骨折	3大骨折(橈骨遠位端骨折)の病態と治療を理解し、説明できる		28	熱傷	熱傷の分類・評価・治療について理解し、説明できる	
14	骨折	3大骨折(橈骨遠位端骨折)の病態と治療を理解し、説明できる		29	熱傷	熱傷の分類・評価・治療について理解し、説明できる	
15	骨折	3大骨折(腰椎圧迫骨折)の病態と治療を理解し、説明できる		30	まとめ	骨関節疾患の知識の整理	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害者ゴールドマスター改訂第2版 身体障害者作業療法学 病気が見える Vol.11 運動器・整形外科		菅原洋子 編集 長崎 重信 監修・編集 医学情報科学研究所		協同医書出版社 MEDICAL VIEW メディックメディア		
参考図書等	基礎運動学 骨折の画像診断 作業療法士のためのハンドセラピー入門		中村 隆一 福田 国彦 (編) 中田 真由美・大山 峰生/著		医歯薬出版 羊土社 三輪書店		
	授業方法	講義・演習を中心に骨関節系障害の作業療法。評価・治療に必要な知識・技能の習熟を図る。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意	作業療法治療を理解する上において、各疾病の知識が必要不可欠です。疾病について予習復習をして授業に臨んでください						

講義科目	小児疾患の作業療法学		
担当講師	橋本 知美		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療法学科2年前期	実務経験 小児領域の病院での実務経験あり 単位数 1
教育目標	運動発達の障害について原因疾患、障害像および作業療法支援の方法を理解する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	発達障害総論 定義・歴史・評価	①発達障害の定義を説明できる ②発達障害分野における一般的評価には何があるか列挙できる ③評価実施から治療計画の流れと諸注意には何があるか言える	
2	発達検査Ⅰ(正常運動発達・手の発達)	①正常運動発達の流れを説明できる ②手の発達(握り・つまみ)の流れを説明できる ③遊びの発達の流れを説明できる	
3	発達検査(反射反応)	①反射・反応の名称・出現時期・統合時期・実施方法を説明できる	
4	発達検査Ⅱ(DDST・遠城寺式検査)	①DDST・遠城寺式の特徴、実施方法を説明できる ②DDST・遠城寺式の結果の解釈ができる	
5	発達検査(JSI-R)	①感覚調整障害の概要を説明できる ②JSI-Rの概要を説明できる ③感覚調整機能障害を持つ小児の遊びの特徴、生活像をイメージできる	
6	感覚統合療法	①感覚統合療法とは何か説明できる	
7	脳性麻痺総論	①脳性麻痺の定義が言える ②脳性麻痺の原因を説明できる ③脳性麻痺の分類方法と各タイプを説明できる	
8	痙直型脳性麻痺児の発達と問題点	①痙直型脳性麻痺のタイプに応じた特徴的発達過程を説明できる ②痙直型脳性麻痺のタイプに応じた問題点を説明できる	
9	痙直型脳性麻痺児の評価と治療	①痙直型脳性麻痺に必要な評価を挙げることができる ②痙直型脳性麻痺のタイプに応じた問題点と介入方法を挙げることができる	
10	アトニーゼ型脳性麻痺児の発達と問題点	①アトニーゼ型脳性麻痺のタイプに応じた特徴的発達過程を説明できる ②アトニーゼ型脳性麻痺のタイプに応じた問題点を説明できる	
11	アトニーゼ型脳性麻痺児の評価と治療	①アトニーゼ型脳性麻痺に必要な評価を挙げることができる ②アトニーゼ型脳性麻痺の問題点に応じた介入方法を挙げることができる	
12	発達検査(GMFCS)	①GMFCSの特徴、実施方法を説明できる ②GMFCSの結果の解釈ができる	
13	筋ジストロフィー症の特徴と評価	①筋ジストロフィー症の代表的タイプとその特徴を説明できる ②筋ジストロフィー症に必要な評価を挙げることができる ③筋ジストロフィー症のステージを挙げることができる	
14	筋ジストロフィー症の問題点と治療	①筋ジストロフィー症のステージと問題点に応じた介入方法を挙げることができる	
15	二分脊椎症の特徴と問題点、評価と治療	①二分脊椎症の特徴を説明できる ②二分脊椎症に必要な評価を挙げることができる ③二分脊椎症の問題点に応じた介入方法を挙げることができる	
教科書	書籍名		著者
	標準作業療法学 発達過程作業療法学		加藤寿宏(編)
参考図書等	DENVERⅡ-デンバー発達判定法- 遠城寺式乳幼児分析発達検査法		出版社 医学書院
	社団法人日本小児保健協会 遠城寺宗徳		日本小児医事出版 慶応義塾大学出版
授業方法	講義・演習。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	人間発達学の復習を行い、正常発達を理解して授業に臨むこと		

講義科目		内部障害系疾患の作業療法学 I					
担当講師		本田 美紗子			授業時間数	30	
開講年次		昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	1
教育目標		①循環器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②代謝系疾患に対する作業療法の基本的介入方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)					
1	オリエンテーション 内部障害について:概念、近年の傾向、障害の特性、作業療法での支援方法	①内部障害の概念について理解し、説明できる ②エネルギー代謝(栄養素、エネルギー供給系、基礎代謝)について説明できる ③循環器に関する基本的解剖・生理について理解する					
2	循環器の基本的解剖・生理について	①運動と循環について運動生理学的に理解する②心電図の見方について理解する ③虚血と貧血について説明できる(自己免疫性溶血性貧血、巨赤芽球貧血など)					
3	心疾患:病態と症状	①代表的疾患(虚血性心疾患)、心不全の病態、症状、治療、経過について理解する ②各病態の心電図の特徴について理解する。					
4	心疾患:作業療法介入について(リスク管理)	①分類・治療・検査データについて説明できる。②代表的疾患(虚血性心疾患、特に心筋梗塞)に対するリスク管理、運動負荷試験、冠危険因子について説明できる					
5	心疾患:作業療法介入について(評価)	①ADLへの影響(障害像)を理解し作業療法評価の目的・項目を列挙し説明できる					
6	心疾患:作業療法介入について(目標設定)	①ADLへの影響(障害像)を理解し作業療法評価結果の解釈と目標設定の方法を説明できる					
7	心疾患:作業療法介入について(治療)	①代表的疾患(虚血性心疾患、特に心筋梗塞)に対する作業療法治療・援助内容について理解する					
8	代謝障害とは 糖代謝のメカニズム・腎臓のしくみと働き	①糖代謝のメカニズムについて理解する					
9	代謝障害(糖尿病):糖尿病の病態と基本的治療・合併症について	①糖尿病の病態、基本的治療、合併症について理解する②三大合併症について理解する(下肢慢性創傷含む)③運動と生活習慣病について運動生理学的に理解する					
10	代謝障害(糖尿病):作業療法介入について(リスク管理、評価、目標設定)	①糖尿病、合併症によるリスク管理、ADLへの影響を理解し、それらに対する評価の目的・項目を列挙できる					
11	代謝障害(糖尿病):作業療法介入について(治療)	①糖尿病の作業療法について、治療の考え方・ADL指導について理解する②行動変容の5つのステージについて理解する。					
12	代謝障害(腎臓疾患):腎臓疾患の病態と基本的治療合併症について	①腎臓のしくみと働きについて解剖生理学的に理解する ②腎臓疾患の病態、治療について理解する					
13	代謝障害(腎臓疾患):作業療法介入について(リスク管理、評価、目標設定)	①腎臓疾患(特に透析治療)によるリスク管理、ADLへの影響を理解し、それらに対する評価の目的・項目を列挙できる					
14	代謝障害(腎臓疾患):作業療法介入について(治療)	①腎臓疾患(特に透析治療)の作業療法における目標設定、治療・ADL指導について理解できる					
15	心疾患・代謝障害まとめ	①それぞれの疾患の評価目的と項目を列挙し説明できる。目標設定と作業療法治療・援助内容について理解する					
教科書	書籍名		著者		出版社		
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 病気が見える Vol.2 循環器		菅原洋子 長崎重信 監修・編集 医学情報科学研究所		協同医書出版社 MEDICAL VIEW メディックメディア		
参考図書等	ゴールドマスター6 内部障害系理学療法学 病気が見える Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 内部障害理学療法学 循環・代謝		柳澤健・編集 医療情報科学研究所 石川朗・総編集		MEDICAL VIEW メディックメディア 中山書店		
	授業方法	講義・演習・グループワーク。 必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。			
履修上の注意	1年次に履修した循環器(心臓、血管、リンパ)、泌尿器の解剖・生理学について十分、復習しておきましょう。 内部障害での障害は目に見えにくくイメージしにくいいため、障害像、ADLへの影響をイメージしながら履修してください。						

講義科目	内部系障害の作業療法学Ⅱ				授業時間数	30
担当講師	本田 美紗子				単位数	1
開講年次	昼間コース	作業療学科 2年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	1
教育目標	①呼吸器系の代表的な疾患について理解し作業療法介入方法を理解する ②悪性腫瘍に対する作業療法の基本的介入方法を理解する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	呼吸器疾患:呼吸器系の基本的解剖	①呼吸器系の解剖学・運動学について理解できる ②気管支の構造と誤嚥性肺炎の関係が説明できる				
2	呼吸器疾患:呼吸器系の生理について	①呼吸器系の生理学について理解できる ②運動と呼吸について運動生理学的に理解する				
3	呼吸器疾患:病態と症状	①呼吸不全について理解する②呼吸器疾患の病態(閉塞性肺疾患(特にCOPD)・拘束性肺疾患)、症状、治療、経過について理解できる③間質性肺炎と自己免疫疾患の関係性を理解できる				
4	呼吸器疾患:作業療法介入について(リスク管理、予防について)	①呼吸器疾患によるリスクとその管理について理解できる②呼吸器疾患の予後と在宅酸素療法について理解できる③予防とヘルスプロモーションについて説明できる				
5	呼吸器疾患:作業療法介入について(評価)	①ADLへの影響(障害像)を理解し、作業療法評価の目的・項目を列挙し説明できる				
6	呼吸器疾患:作業療法介入について(評価)	①実際の評価を行い、評価結果の解釈と問題点を列挙できる				
7	呼吸器疾患:作業療法介入について(目標設定)	①呼吸器疾患の治療方針・作業療法介入の具体的方法について理解できる				
8	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①COPDの症例について評価項目と目的を列挙し、評価結果から問題点を説明できる ②ADLへの影響(障害像)を理解し、症例について作業療法の目標設定を説明できる				
9	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①COPDの症例について、治療計画を立案し説明できる				
10	呼吸器疾患:作業療法介入について(治療)	①演習を通して、吸引に必要な解剖・生理、吸引方法を理解できる ②疾患と各種治療について説明できる。				
11	腫瘍について 悪性新生物とは何か 治療と予後	①腫瘍(良性と悪性)について理解できる②悪性腫瘍の種類と予後について理解できる ③開腹術後のADL動作指導を理解できる④肝臓機能障害、小腸機能障害と障害者手帳				
12	肺癌:作業療法介入について(肺癌の病態、治療、症状、評価、目標、治療)	①肺癌の病期、治療、手術療法後の障害像について理解できる②肺癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
13	乳癌:作業療法介入について(乳癌の病態、早期発見、治療、症状、評価、目標、治療)	①乳癌の病期、治療、手術療法後の障害像について理解できる②病的骨折予防の作業療法介入について説明できる③乳癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
14	乳癌:作業療法介入について(評価、目標、治療)	①乳癌に対する作業療法介入を知り、評価・目標・治療の実際を理解できる				
15	呼吸器疾患・乳癌まとめ	①各疾患の終末期の評価目的と項目を列挙し説明できる。②終末期の目標設定と作業療法治療・援助内容について理解できる				
教科書	書籍名		著者		出版社	
	作業療法学全書 改訂第3版 身体障害 ゴールドマスター改訂第2版 身体障害作業療法学 病気が見える Vol.4 呼吸器		菅原洋子 長崎重信 監修・編集 医学情報科学研究所		協同医書出版社 MEDICAL VIEW MEDIC MEDIA	
参考図書等	入門運動生理学		勝田茂 編集		杏林書院	
授業方法	講義・演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。		
履修上の注意						

講義科目		精神障害の作業療法学 I					
担当講師		諫山 歩		授業時間数	60		
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2	
教育目標		認知症高齢者を含む精神医療における現状、利用できる制度及び社会資源を理解する。また、精神疾患の対象理解とリハビリテーションの概念を踏まえ、作業療法理論と構造、技術及び作業療法評価の基礎を理解する。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	精神科医療の作業療法	①精神科作業療法対象疾患 ②精神科作業療法とは何か理解する		16	統合失調症の作業療法	①就労支援の種類と適応がわかる ②クライシスプランについて理解する	
2	日本と世界の精神障害の歴史	①精神障害の歴史を知る		17	統合失調症の作業療法	①事例検討(急性期～回復前期)	
3	精神医療の現状	①精神障害者の現状 ②病院のシステムがわかる		18	統合失調症の作業療法	①事例検討(社会資源利用・就労支援)を理解する	
4	治療過程と治療構造、作業活動	①作業療法の流れ ②作業療法の導入のポイント ③治療構造がわかる		19	気分障害の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約)、回復段階と生活障害を理解する	
5	治療過程と治療構造、作業活動	①個人・集団の治療因子、治療構造の仕組みを知る		20	気分障害の作業療法	①評価(インタビュー面接・情報収集・観察・検査SDS・H-RSDなど)を理解する	
6	治療過程と治療構造、作業活動	①個人・集団の治療因子、治療構造の仕組みを知る		21	気分障害の作業療法	①評価(インタビュー面接・情報収集・観察・検査SDS・H-RSDなど)を理解する	
7	回復段階に応じた作業療法	①回復段階の流れを理解する		22	気分障害の作業療法	①治療学 薬物療法・学習理論・認知行動療法・電気ショックなどを理解する	
8	統合失調症の作業療法	①急性期:疾患理解・生活障害 ②評価(インタビュー面接・情報収集・観察・検査)がわかる		23	気分障害の作業療法	①急性期 作業療法の目的・役割を理解する	
9	統合失調症の作業療法	①急性期:陽性症状の評価を理解する ②陽性症状と生活障害を理解する ③薬物療法		24	気分障害の作業療法	①回復期前期 作業療法の目的・役割を理解する	
10	統合失調症の作業療法	①陰性症状の評価を理解する ②陰性症状と生活障害を理解する		25	気分障害の作業療法	①回復期後期 作業療法の目的・役割を理解する	
11	統合失調症の作業療法	①認知機能障害の評価を理解する ②認知機能障害と生活障害を理解する		26	気分障害の作業療法	①回復期後期 作業療法の目的・役割 退院支援を理解する	
12	統合失調症の作業療法	①急性期 ②作業療法の目的・役割を理解する		27	気分障害の作業療法	①回復期後期 作業療法の目的・役割 退院支援を理解する	
13	統合失調症の作業療法	①回復期前期:疾患理解 ②評価:情報収集・観察・検査を理解する		28	統合失調症・気分障害 基本まとめ	統合失調症・気分障害治療法基本(グループ)	
14	統合失調症の作業療法	①回復期後期:疾患理解 ②評価:面接・情報収集・観察・検査・アセスメント)を理解する		29	統合失調症の事例検討	統合失調症の事例検討(グループ)	
15	統合失調症の作業療法	①退院後利用できる社会資源 ②地域生活をサポートする制度を理解する		30	気分障害の事例検討	気分障害の事例検討(グループ)・まとめ	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	作業療法学 ゴールド・マスター 第2版 精神障害作業療法学 精神疾患の理解と精神科作業療法		長崎重信 朝田隆、中島直、堀田英樹		MEDICAL VIEW 中央法規		
参考図書等	精神障害と作業療法		山根寛		三輪書店		
授業方法	講義及び演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。			
履修上の注意	講義の際に説明します。 講義中はしっかりとした姿勢で臨み、予習・復習を行うようにしてください。						

講義科目		精神障害の作業療法学Ⅱ					
担当講師		二階堂 晴江		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース	作業療学科 2年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり		
教育目標		精神障害領域の作業療法の対象となる疾患の臨床像と精神特性、疾患別作業療法の治療的方法について 理解する。認知症及び児童期精神障害を含む。					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	神経症圏の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約)がわかる		16	依存症の作業療法	薬物依存症に対する作業療法を理解する	
2	神経症圏の作業療法	①分類(全般性不安障害、パニック障害、PTSD、恐怖症、強迫性障害、解離性障害)を理解する		17	依存症の作業療法	アルコール依存症を理解する	
3	神経症圏の作業療法	①神経症圏の作業療法の評価がわかる		18	依存症の作業療法	①疾患理解、生活障害がわかる	
4	神経症圏の作業療法	①作業療法の目的・対応・治療を理解する		19	依存症の作業療法	①導入期と回復期 作業療法の目的・対応・治療を理解する	
5	神経症圏の作業療法	事例検討		20	依存症の作業療法	事例検討	
6	摂食障害の作業療法	①疾患理解(心身機能、活動制限、参加制約) 拒食症・過食症を理解する		21	児童期精神障害	児童期の精神障害と作業療法を理解する	
7	摂食障害の作業療法	①基本的治療方法 ②作業療法の目的・対応・治療を理解する		22	知的障害・特異的発達障害	ダウン症・トゥレット症候群・レット症候群他	
8	摂食障害の作業療法	事例検討		23	広汎性発達障害	自閉症スペクトラムの分類を理解する	
9	パーソナリティ障害の作業療法	①パーソナリティ障害の分類(境界型・妄想性・シゾイド・反社会性など)がわかる		24	アスペルガー症候群	①疾患の理解と生活障害を理解する	
10	パーソナリティ障害の作業療法	①境界性人格障害の作業療法介入を理解する		25	アスペルガー症候群	①評価と介入方法②作業療法の導入③対応の基本がわかる	
11	パーソナリティ障害の作業療法	①境界性人格障害の作業療法介入がわかる		26	ADHD	①疾患の理解と生活障害 それぞれの評価と介入方法がわかる	
12	パーソナリティ障害の作業療法	①演技性人格障害の作業療法介入がわかる		27	特異的発達障害 知的障害	①LD・知的障害の障害特性と生活障害・評価と介入方法がわかる	
13	パーソナリティ障害の作業療法	パーソナリティ障害の治療介入の基本を理解する		28	広汎性発達障害・ADHD・知的障害・特異的発達障害	①事例検討	
14	パーソナリティ障害の作業療法	パーソナリティ障害の事例検討		29	てんかんの作業療法	①発作・疾患特徴を理解する	
15	依存症の作業療法	薬物依存症を理解する		30	てんかんの作業療法	①評価・作業療法の目的・方法を理解する ②総合支援法による支援を理解する	
教科書	書籍名		著者		出版社		
	精神疾患の理解と精神科作業療法		朝田隆、中島直、堀田英樹		中央法規		
参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター 第2版 精神障害作業療法学 精神障害と作業療法		長崎重信 山根 寛		MEDICAL VIEW 三輪書店		
授業方法	座学での講義及び演習。 必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	定期試験にて評価する。			
履修上の注意	講義の際に説明します。 講義中はしっかりとした姿勢で臨み、予習・復習を行うようにしてください。						

講義科目	高次脳機能障害の作業療法学		
担当講師	桑原 健志		授業時間数 30
開講年次	昼間コース	作業療学科2年後期	実務経験 身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり 単位数 1
教育目標	①高次脳機能障害の神経心理学的評価方法を習得し、生活障害の特徴を理解する ②外傷性脳損傷を含み高次脳機能障害者の全体像を把握し、作業療法介入の方法を理解する		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	高次脳機能障害総論	①高次脳機能障害とは何かを説明できる ②人間の高次脳機能における脳機能局在とネットワークの概要を述べることができる ③脳画像診断のポイントを述べることができる	
2	高次脳機能障害の分類と作業療法評価及び介入の視点	①高次脳機能障害分類の体系を述べるができる ②高次脳機能障害に作業療法評価の原則を説明できる ③高次脳機能障害の作業療法介入の原理を説明できる	
3	失語症	①失語症の分類と言語ネットワークの関連を述べるができる ②各失語症の症状と病巣を説明できる ③失語症への評価介入の概要を説明できる ④失語症の評価の一部を実施できる	
4	失行、行為、行動の障害	①失行の定義と分類を述べるができる ②観念運動失行に対する作業療法介入のポイントを述べることができる ③失行関連症状と行為・行動の抑制障害とその要因を述べるができる ④失行の評価の一部を実施できる	
5	失認と関連症候	①感覚モダリティと失認の関係を述べることができる ②視覚失認の症状及び病巣を説明できる ③相貌失認の症状及び病巣を説明できる ④失認の評価の一部を実施できる	
6	半側空間無視①病態と責任病巣	①半側空間無視の定義と症状を説明できる ②半側空間無視に合併する様々な症状を説明できる ③方向性注意のネットワークと発現メカニズムの責任病巣を説明できる	
7	半側空間無視②評価と治療	①半側空間無視の評価の実際を理解できる ②治療介入の方法についての原理原則を説明できる ③半側空間無視の治療に対するエビデンスを述べることができる ④半側空間無視の評価の一部を実施できる	
8	外界と身体の処理に関わる空間性障害	①ブッシュナー症候群の病型及び病巣を述べるができる ②パ rint 症候群の症状及び責任病巣を述べることができる ③構成障害の評価と発現メカニズムを述べることができる	
9	注意障害	①注意とは何か、その諸側面を説明できる ②注意障害の評価方法を説明できる ③注意のネットワーク及びワーキングメモリーの機能を述べることができる	
10	記憶障害	①記憶障害の分類と症状を述べることができる ②パペッツ回路領域の局在性損傷と記憶障害について述べることができる ③記憶障害の評価及び作業療法介入を説明することができる	
11	遂行機能障害	①遂行機能障害とは何かを(認知ピラミッド)述べることができる ②遂行機能障害と障害部位の関連を理解する ③遂行機能障害の評価を説明できる ④遂行機能障害の評価の一部を実施できる	
12	外傷性脳損傷による高次脳機能障害①病態	①外傷性脳損傷と高次脳機能障害について述べることができる ②びまん性軸索損傷の画像診断を述べることができる ③急性期から回復期までの介入ポイントを述べることができる	
13	外傷性脳損傷による高次脳機能障害②障害像と評価	外傷性脳損傷患者の事例を通じて、症状と評価・介入について説明できる	
14	症例による評価方法の違いと解釈方法	各種検査方法と評価の手順を経験し、結果の解釈を実施できる (BIT、BADs、コース立方体、CAT)	
15	症例による評価方法の違いと解釈方法	各種検査方法と評価の手順を経験し、結果の解釈を実施できる (BIT、BADs、コース立方体、CAT)	
教科書	書籍名	著者	出版社
	高次脳機能障害学 作業療法学全書 改訂第3版 高次脳機能障害	石合純夫 澁 雅子 編集	医歯薬出版 協同医書出版社
参考図書等	高次脳機能障害ポケットマニュアル 病気が見えるVol.7 脳・神経 ゴールドマスター改訂第2版 高次脳機能障害作業療法学	原寛美 監修 医学情報科学研究所 長崎重信 監修	医歯薬出版 メディックメディア MEDICAL VIEW
授業方法	講義を中心に実施。障害イメージを高めるため必要に応じてDVD等視聴覚教材を使用する。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	様々な障害を学習するため、復習を行い各障害の症状等を整理して覚える また事前に書籍付録のDVDやインターネットなどで動画を閲覧し、高次脳機能障害のイメージを高めるよう心がけて下さい		

講義科目	作業療法学技術演習 I				
担当講師	亀田 秀一 桑原 健志		授業時間数	60	
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年前期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	
単位数	2				
教育目標	生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する				
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	No.	講義計画	行動目標(学習目標)
1	総論	授業の進め方を理解できる	16	評価の実施③ 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる
2	症例提示と調べ学習	大腿骨頸部骨折の基礎知識を理解することができる	17	評価の実施③ 実技	症例の状況に合わせた評価の実施ができる
3	症例提示と調べ学習	大腿骨頸部骨折の基礎知識を理解することができる	18	評価の実施③ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる
4	基礎・医学的・社会的情報の収集①	必要な情報を考え、情報を得ることができる	19	評価の実施④ 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる
5	基礎・医学的・社会的情報の収集②	必要な情報を考え、情報を得ることができる	20	評価の実施④ 実技	症例の状況に合わせた評価の実施ができる
6	基礎・医学的・社会的情報の収集③	必要な情報を考え、情報を得ることができる	21	評価の実施④ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる
7	評価項目列挙と臨床推論①	現れる障害の仮説を立てることができる	22	評価の実施⑤ 評価目的と留意点	評価が必要な基本動作、セルフケア、IADLの項目・目的と症例に合わせた留意点を説明することができる
8	評価項目列挙と臨床推論②	仮説より評価項目を列挙し、優先順位を決めることができる	23	禁忌肢位とADL指導①: 実技	禁忌肢位より、困難なADLと指導方法を説明することができる
9	評価計画の立案 (優先順位の検討)	評価の特徴を捉え、決定した優先順位の根拠を説明できる	24	禁忌肢位とADL指導②: 実技	禁忌肢位より、困難なADLと指導方法を説明することができる
10	評価の実施① 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる	25	評価の実施⑤ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる
11	評価の実施① 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる	26	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理①	情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる
12	評価の実施① 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	27	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理②	情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる
13	評価の実施② 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる	28	ゴールおよびプログラム立案①	目標設定と目標に合わせたプログラム立案ができる
14	評価の実施② 実技	症例の状況に合わせた評価の実施ができる	29	ゴールおよびプログラム立案②	目標設定と目標に合わせたプログラム立案ができる
15	評価の実施② 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	30	まとめ	全体を通して理解を深め、統合記録を完成できる
教科書	書籍名		著者		出版社
	随時使用書籍を紹介				
参考図書等	随時使用書籍を紹介				
授業方法	グループ学習で作業療法思考過程を学び、実習で使用出来る知識として整理を行う。実習で使用する各種書式の書き方・使い方について体験する。必要に応じて遠隔授業を実施する。		成績評価方法	レポートの提出状況、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断し、評価する	
履修上の注意	作業療法を実施する上で必要な評価について、その手段、技術について実技や調べ学習を行い、身につけるよう努力すること。疾患の理解を深め、作業療法に活かせるよう積極的に調べ学習を行い、知識の整理を行うこと。また、各種の記録物作成を通じて、対象者の情報を整理し、評価項目の列挙・計画から治療計画立案までの一連の作業療法思考過程が理解できるよう取り組むこと。				

講義科目		作業療法学技術演習Ⅱ					
担当講師		本田 美紗子 亀田 秀一		授業時間数	60		
開講年次		昼間コース 作業療法学科 2年後期	実務経験	身体障害者領域の病院・高齢者施設・在宅領域での実務経験あり	単位数	2	
教育目標		生活行為向上マネジメントの概念をもとに、提示された症例の全体像を把握し、現状能力や生活行為を妨げている要因の分析、目標設定、治療プログラム立案という一連の作業療法思考過程を経験する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)		No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	総論	授業の進め方を理解できる		16	評価の実施② 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	
2	症例提示と調べ学習	疾患の基礎知識を理解することができる		17	評価の実施③ 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる	
3	症例提示と調べ学習	疾患の基礎知識を理解することができる		18	評価の実施③ 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる	
4	基礎・医学的・社会的情報の収集①	必要な情報を考え、情報を得ることができる		19	評価の実施③ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	
5	基礎・医学的・社会的情報の収集②	必要な情報を考え、情報を得ることができる		20	評価の実施④ 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる	
6	基礎・医学的・社会的情報の収集③	必要な情報を考え、情報を得ることができる		21	評価の実施④ 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる	
7	基本動作・ADL観察	情報収集から、必要な基本動作・ADLの観察をすることができる		22	評価の実施④ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	
8	動作・活動観察からの臨床推論①	動作・活動の観察結果より、問題のある動作の原因を推測することができる		23	評価の実施⑤ 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる	
9	動作・活動観察からの臨床推論②	動作・活動の観察結果より、問題のある動作の原因を推測することができる		24	評価の実施⑤ 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる	
10	評価計画の立案(優先順位の検討)	仮説より評価項目を列挙し、優先順位を決める考えることができる		25	評価の実施⑤ 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる	
11	評価の実施① 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる		26	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理①	情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる	
12	評価の実施① 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる		27	現状能力と生活行為を妨げている要因の整理②	情報収集、評価結果より現状能力と生活行為を妨げている要因の整理ができる	
13	評価の実施① 結果の解釈	評価結果より、仮設の立証と評価結果の意味を解釈できる		28	ゴールおよびプログラム立案①	目標設定と目標に合わせたプログラム立案ができる	
14	評価の実施② 評価目的と留意点	評価方法を確認し、評価の目的と症例に合わせた留意点を説明することができる		29	ゴールおよびプログラム立案②	目標設定と目標に合わせたプログラム立案ができる	
15	評価の実施② 実技	症例の症状に合わせて評価を実施し、評価結果を得ることができる		30	まとめ	全体を通して理解を深め、統合記録を完成できる	
教科書	書籍名			著者		出版社	
	随時使用書籍を紹介						
参考図書等							
授業方法	座学による講義、グループワーク、教員担当の個別指導。必要に応じて遠隔授業を実施する。			成績評価方法	レポートの提出状況、学習に取り組む姿勢等を総合的に判断し評価する		
履修上の注意	作業療法を実施する上で必要な評価について、その手段、技術について実技や調べ学習を行い、身につけるよう努力すること各疾患の理解を深め、作業療法に活かせるよう積極的に調べ学習を行い、知識の整理を行うことまた、各種の記録物作成を通じて、対象者の情報を整理し、評価項目の列挙・計画から治療計画立案までの一連の作業療法思考過程が理解できるよう取り組むこと						

講義科目	生活環境学		
担当講師	諫山 歩		授業時間数 30
開講年次	昼間コース 作業療法学科2年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり 単位数 2
教育目標	障害者、高齢者の地域生活支援方法として、社会制度の活用、福祉用具の適応、住環境の改造等整備が行える知識を身につける		
No.	講義計画	行動目標(学習目標)	
1	生活環境学について・日本家屋における特徴、バリアフリー及び関連諸制度について	リハビリテーションにおける生活を説明できる バリアフリーデザインとユニバーサルデザインについて説明できる	
2	住環境整備について (玄関・廊下・トイレ)	住環境整の意義、流れについて説明できる。具体的な住環境整備対策を説明できる	
3	住環境整備について (洗面所・浴室・寝室・台所)	住環境整の意義、流れについて説明できる。具体的な住環境整備対策を説明できる	
4	福祉用具について (移動・移乗用具など)	福祉用具の定義と概念について説明できる。種類について具体的に説明できる 移動・移乗用具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる	
5	福祉用具について (起居・入浴用具など)	起居・入浴用具の種類について具体的に説明できる 起居・入浴用具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる	
6	福祉用具について (排泄・コミュニケーション用具、自助具など)	排泄・コミュニケーション用具、自助具の種類について具体的に説明できる 排泄・コミュニケーション用具、自助具の活用例を挙げ、その適合性を検討することができる	
7	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中①)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる	
8	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中②)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる	
9	疾患別住宅改修ポイント (脳卒中③)	脳卒中患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる	
10	疾患別住宅改修ポイント (頸髄・胸腰髄損傷)	脊髄損傷患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる	
11	疾患別住宅改修ポイント (リウマチ)	リウマチ患者における能力レベルに応じた住環境整備について説明できる	
12	福祉用具演習① (グループワーク)	実際に福祉用具を使用し、各用具の5W2Hを説明できる	
13	福祉用具演習② (グループワーク)	実際に福祉用具を使用し、各用具の5W2Hを説明できる	
14	事例検討	事例検討を行い、グループで事例に必要な住宅改修や福祉用具を検討する	
15	事例検討	事例検討を行い、グループで事例に必要な住宅改修や福祉用具を検討する	
教科書	書籍名	著者	出版社
	理学療法学テキストX 生活環境論	千住秀明	神陵文庫
参考図書等	作業療法学全書 改訂第3版 福祉用具の使い方・住環境整備	日本作業療法士協会監修	協同医書出版社
授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。
履修上の注意	予習復習を欠かさない事、特に復習は重要となります 主体的に講義に参加して下さい		

講義科目	地域作業療法学演習					
担当講師	二階堂 晴江				授業時間数	30
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	実務経験	精神科・高齢者施設にて実務経験あり	単位数	2
教育目標	地域作業療法の理念、目的、概要について学び、在宅作業療法、就学支援、就労支援等の地域で暮らすための作業療法支援の在り方を理解する					
No.	講義計画	行動目標(学習目標)				
1	地域リハビリテーションの概念	①地域リハビリテーションの歴史を学び、考え方や定義を説明できる ②地域リハビリテーションの範囲(地域の捉え方)を説明できる ③地域包括ケアの概念を知る				
2	地域作業療法の概念	①3つの保健医療圏を理解する ②地域作業療法の役割と連携の重要性を理解する ③生活行為向上マネジメントの重要性を理解する				
3	社会保障制度について	①社会保障制度の意味を理解する ②社会保障制度の変遷を理解する				
4	地域の社会資源について	①フォーマル・インフォーマルな社会資源の意味を理解する ②サービス提供主体による社会資源の分類を知る ③社会資源に関する諸制度を知る(医療・介護・障害)				
5	地域作業療法の関連法規① (医療保険制度)	①社会保険制度の意味を理解する ②医療保険制度と保険診療制度を理解する ③疾患別リハビリテーション制度を知る				
6	地域作業療法の関連法規② (介護保険制度)	①介護保険制度の目的を理解する ②介護サービスの流れを理解する ③介護サービスの種類の概要を理解する				
7	地域作業療法の関連法規③ (障害者総合支援法)	①障害者総合支援法の目的を理解する ②障害者総合支援法のサービスを理解する ③サービス利用の流れを理解する				
8	地域包括ケアの実際①	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる ②地域包括ケアシステムと作業療法の関連を知る				
9	地域包括ケアの実際②	①地域包括ケアシステムの概要を説明できる ②地域包括ケアシステムと作業療法の関連を知る				
10	障害者支援の実際①	①障害者支援における作業療法士の役割とその内容を理解する ②障害者の地域生活支援を理解する				
11	障害者支援の実際②	①障害者支援における作業療法士の役割とその内容を理解する ②障害者の地域生活支援を理解する				
12	介護予防の実際①	①認知症予防、転倒予防の実際を知る ②介護予防における実践と作業療法士の役割を知る				
13	介護予防の実際②	①認知症予防、転倒予防の実際を知る ②介護予防における実践と作業療法士の役割を知る				
14	事例検討①	①他職種連携の重要性を知る②コミュニケーション能力の重要性を知る③制度を知ることの重要性を知る④個々のニーズを理解する柔軟性と行動力の重要性を知る				
15	事例検討②					
教科書	書籍名		著者		出版社	
	地域リハビリテーション学		重森健太 編		羊土社	
参考図書等	随時提示を行う					
授業方法	講義・演習・グループワーク。必要に応じて遠隔授業を実施する。	成績評価方法	定期試験にて評価する。			
履修上の注意	主体的に授業へ参加すること、積極的な学習を望みます。					

IV. 臨床実習

講義科目	臨床実習Ⅱ-1(地域見学実習)		
担当講師	2年生担任		授業時間数 45
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	単位数 1
教育目標	① 地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。 ② 実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。 ③ 学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。 ④ 実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。		
講義計画(講義内容を含む)			
【地域実習の概要】 地域包括ケアシステムの強化に資する高度医療人材を育成することを目的に地域実習を行う。地域実習では、1年次から2年次後期までに学習した、理学療法・作業療法に関する基礎的な知識と地域リハビリテーションの知識を基に、実習施設において実習指導者の指導・監督の下、理学療法・作業療法業務の見学や一部の業務について補助的に関わることを体験する。この体験を通して、対象者へ接する「態度」や「対応」を育むとともに、地域包括ケアシステムにおける理学療法士・作業療法士の責任と自覚を培う。			
教育目標①「地域包括ケアシステムにおける実習施設の役割を理解し説明できる。」に対する行動目標 (認知領域)地域包括ケアシステムが構築された背景を説明できる。 (認知領域)地域包括ケアシステムの目的を説明できる。 (認知領域)地域包括ケアシステムにおける通所又は訪問リハビリテーションの役割を説明できる。			
教育目標②「実習施設における理学療法士・作業療法士および他専門職の役割を理解する。」に対する行動目標 (認知領域)通所又は訪問リハビリテーションで従事している理学療法士・作業療法士の役割を説明できる。 (認知領域)通所又は訪問リハビリテーションで従事している他専門職の役割を説明できる。			
教育目標③「学校および実習施設の規則に従って自覚を持った行動がとれる。」に対する行動目標 (情意領域)実習生として相応しい身だしなみを整えることができる。 (情意領域)提出物を期限内に提出することができる。 (情意領域)学校および施設の規則やスケジュールに従って行動することができる。 (情意領域)実習指導者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 (情意領域)他専門職と関わり、良好な関係を構築・維持できる。			
教育目標④「実習施設における理学療法・作業療法業務の一部経験する。」に対する行動目標 (情意領域)医療従事者として自覚を持ち、利用者に対し相応しい態度や対応がとれる。 (情意領域)対象者と十分にコミュニケーションを図り、良好な関係を構築・維持できる。 (運動領域)対象者の一般的情報をカルテ等から収集し、問題点や目標について実習指導者へ考えを述べるができる。 (運動領域)学内で学んだ知識・技術を活かし、実習指導者の管理下のもと一部の業務が補助できる。			
教科書	書籍名	著者	出版社
	特に指定しない		
参考図書等			
授業方法	学内実習及び施設実習	成績評価方法	個人評定表を用いて学内取り組み及び施設実習を総合的に評価する。
履修上の注意	目的を明確にして、自主性を持って取り組むこと。		

講義科目	臨床実習Ⅱ-2		
担当講師	2年生担任		授業時間数 90
開講年次	昼間コース	作業療法学科 2年後期	単位数 2
教育目標	精神科医療機関、認知症関連施設において、臨床教育者の指導の下、精神障害者の障害特性や生活のしづらさ、精神科作業療法の実際など、精神科領域における作業療法士の役割を理解する。		
講義計画(講義内容を含む)			
<p>事前学習</p> <p>当該施設の概要を整理、事前学習に努める。 精神疾患、精神科作業療法について事前に再学習し理解を深める。</p> <p>臨床実習(医療機関における実習)</p> <p>施設での臨床実習教育者からの指導を通じて、下記を中心に作業療法士の役割・チーム医療について学ぶ。</p> <p>見学・観察により、施設の機能・療養環境・作業療法場面を知る。 指導者の指導の下、対象者とのコミュニケーションを図る。 施設において対象とする疾患・病態におけるイメージを臨床教育者の助言をもとに自分の思考で観察・確認できる。 精神障害者の障害特性や生活のしづらさなど臨床教育者の助言をもとに口頭で表現できるようになる。 精神科領域での治療、援助の方法や視点及びマナーを、臨床教育者の助言をもとに学習・イメージできる。 作業療法士の役割と機能を学び、リハビリテーションにおける位置づけの重要性を知る。</p> <p>事後学習</p> <p>演習後学内フィードバック(グループ発表) 演習で得られた多くの体験や情報を整理し、これまで学内で学んできた知識の結びつけを図る。 グループ間で情報共有を行い、グループ発表を行う。</p>			
教科書	書籍名	著者	出版社
	特に指定しない		
参考図書等	作業療法学 ゴールド・マスター 第2版 精神障害作業療法学 精神疾患の理解と精神科作業療法 精神障害と作業療法	長崎重信 朝田隆、中島直、堀田英樹 山根寛	MEDICAL VIEW 中央法規 三輪書店
授業方法	臨床実習施設における実習を通して学習する。	成績評価方法	臨床実習施設における評定及び学内での学習状況を総合的に評価
履修上の注意	臨床現場における作業療法士の思考を通じて精神障害者の障害特性や生活のしづらさのイメージをもち、精神科領域への興味・関心及び向学心をもつよう努めて下さい。		